

# C. 人や地域とのかかわりの中に「科学する心」がある

## C-1. 「ホタルってすごいな」

高島幼稚園（岡山県岡山市） <全園児・2003年5月～2004年6月>

### 地域の様子

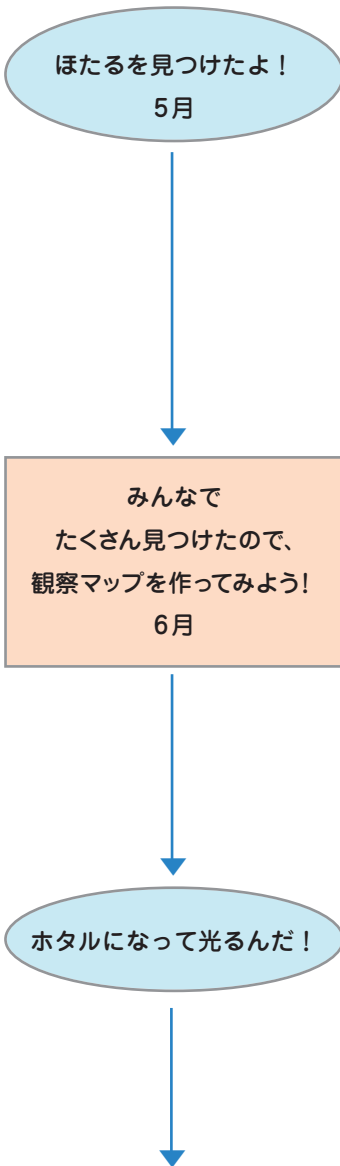
高島学区は、ホタルの里としても有名で、地域の方が協力して繁殖、保護している。そのため、幼稚園周辺の用水路や川では、毎年たくさんのホタルを見ることができる。また、毎年地域の公園で「ホタル祭り」も開かれ、ホタルの観察をしたり、詳しく学んだりできる環境にある。

### ホタルにかかわる活動への願い

こうした地域の特色を生かし、幼児と保護者が一緒にホタルを探す中で、見つけた時の「喜び」や「驚き」、幻想的な光景に出会う「感動」、光っていることへの「疑問」など、様々な感情を共有するきっかけにしてほしいと考えている。また、ホタルを探したり、貴重な存在であることを知ったりする中で、生き物を大切にしようという気持ちが育ってほしいとも考えている。

### 活動の展開

● 幼児からの活動    ■ 教師からの投げかけ    □ 教師の思い・援助・読み取り



- ・ ある幼児が「お父さんとホタルを見つけた」と幼稚園に持ってきたことをきっかけに、自分の経験をそれぞれに伝えようとする。
- ・ 「おしりが光ってるよ」「何を食べるの？」
- ・ 「どきどきするけど、かわいいね」
- ・ 「ホタルってどうして光るの？電池が入ってるの？」
- ・ 保護者からも家庭での様子を聞くことができた。ホタルを見つけて持ち帰った夜、「お母さんやお友達のところへ返してあげよう」と母親に言われ、泣きながらさよならをする。すると、一度飛んですぐに手に止まったのを見て「ありがとって来てくれたよ」と言ったそうである。

・ 幼児の発見した喜びにその場で共感して終わりにするのではなく、この地域のならではの感動した経験を友達同士で共有できるようにしたい、発見した喜びやホタルを探す楽しさから、ホタルに対してもっと興味をもってほしいと考え、みんなで見つけた場所や数などを「観察マップ」に記入することを教師から提案する。

- ・ 観察マップには、シールを貼って日付を記入し、生息場所や数が分かるようにする。
- ・ 「ホタルの里にたくさんいたよ」「幼稚園の近くの小さい川にもいたよ」と探した場所を記していく。
- ・ 「おとといはたくさんいたけど、昨日はいなかったよ。どうして？」天候や気温によって違いのあることに疑問をもつ幼児もいる。
- ・ 「ここはたくさんホタルがいるね」「どうしてここにはいないの？」とシールの数をみて幼児なりに気づいている。

・ ホタルをいろいろな場所で探すことで、見つけた喜びを感じながら自分たちの住む地域を身近に感じている。

・ マップに記入することで、ホタルの住む場所や数を視覚で確認できるため、幼児なりに疑問を捉えて考えやすいようだ。

- ・ 「ホタルになって光っているよ」と遊んでいる幼児が見られる。
- ・ お面の材料を準備したり、「先生、ホタルは夜に光るから暗くして」との言葉から、保育室を暗くして雰囲気を出したりすることで、なりきって遊ぶことができ、「ホタルのおうち」を作ったり、劇ごっこをしたりするなど、よりごっこ遊びが広がる。

・ 観察マップに記入したり、友達と話し合ったりする中で、次第にホタルへの思いが強くなっていったようだ。

・ ごっこ遊びをしながら、自分が経験したり感じたりしたことをしっかりと表現している。

・ 幼児の思いにそって、柔軟に環境を構成していくことも大切である。

ホタルの絵本  
「ほたるホテル」を読んで  
イメージを膨らませよう。

地域のホタル博士に  
話を聞いてみよう！

ホタルみたいに  
光りながら飛びたいな

ホタルの紙芝居を作ろう！

紙芝居「ホタルさんと  
えいじくんのぼうけん」を  
みんなに見せてあげたい  
7月

ホタル祭りで  
紙芝居を見てもらおう  
(翌年6月)

- ・ホタルが光る場面では「わー、きれい！ どうして、ホタルは光るの？」と疑問をもつ。また、ホタルが光を灯し虫たちが眠る場面では「ホタルってどこでどうやって寝るの？」といった質問が出てくる。
- ・ホタルの繁殖にかかわっている地域のお年寄りに、詳しい話が聞けるようお願いする。えさは何を食べるのか、どのくらい生きているのか、どうして光るのかといった質問に対して「えさはカワナナで、水がきれいなところに住んでいるんだよ」「光るのはおよめさんを探すためなんだよ」「生まれて10日くらいしか生きられないんだよ」と詳しく知ることができた。

- ・絵本からはごっこ遊びにつながるイメージが広がっただけでなく、それぞれの場面でホタルの具体的な生活の様子を知ることができ、さらに疑問がわいてきたようだ。
- ・自分たちが見たり感じたりした疑問の答えを、地域のお年寄りに聞いてみることで、地域の人とかかわりながら学んでいくことができた。

- ・「ホタルってすごいなあ。ホタルみたいに光りながら飛んでみたいな」「ホタルの背中に乗ってみたい！」「体が小さくなって一緒に遊びたい！」と話し合いの中で思いが強くなっていく。

- ・いろいろな知識を知っていくうちに、ホタルを見つける喜びや不思議に思ったりすることから、自分をホタルと等身大に置き換えて「自分がホタルと友達だったらどうやってかわるか」とイメージを膨らませるようになった。

- ・幼児のイメージを形にするため、教師から紙芝居作りを提案する。
- ・T「最初はどこでホタルを見つけようか？」C「ホタルは水が好きだから、川の側がいい」
- ・T「ホタルさんとどんなことがしたい？」C「ホタルさんと一緒に遊びたいな」「小さくなってホタルさんに会いたい」「こわいかまきりも出てきたらいい」といった会話が進む。
- ・「Aちゃん、作るのが得意だからホタルの作り方を教えてくれる？」教師の誘いにA児が応え、「いろいろな色の紙があるよ」とA児を中心に、切ったり貼ったりしながら製作する。

- ・教師とのやり取りの中で、徐々に幼児なりの思いがでてくる。これまでのホタルを見た経験やごっこ遊びでの経験、ホタル博士に聞いたことなどの積み重ねが、幼児の思いに表れているようだ。



- ・「年中組さんや年少組さんにも見せてあげようよ」と自分たちが作った紙芝居に招待して見せてあげる。
- ・保護者にも見せ、「ホタル祭りなどで他の人にも見せてあげるといいね」という反応があった。



翌年、

- ・翌年の年長児がカセットにセリフを吹き込んだ。画面は当日スクリーンにパソコンから映し出され、ホタル祭りで披露することとなった。
- ・「あっ、みんなで作ったホタルの紙芝居だ！」「おもしろいね」といった感想が小学校1年生や地域の人から聞かれた。

## 考察

- ・園外での経験がきっかけとなり、この地域でしかできない自然環境を生かした活動につなげていくことができた。観察マップでは、自分の足で歩いてホタルを探すことで、発見した時の喜びやもっと知りたいという探究心が高まっていったと考える。また、身近な地域の自然を知ったり振り返ったりするよい機会となった。
- ・今回の活動から、自然体験を豊かにするのは教師だけではないということがよく分かった。親子でのふれあい、地域の専門知識を持った人とかかわり、絵本や紙芝居といった教材など、幼児の実態や興味関心に応じて取り入れ、興味関心を高めていく大切さを感じた。

## ポイント

近隣にホタルの生息地があるという特性を生かし、園児が見つめてきたホタルをきっかけにして活動が展開されています。ホタルに詳しいお年寄りを巻き込んで子どもたちの興味を発展させるなど、地域の自然や人と関わる中で、子どもたちの好奇心や探究心がより豊かに育まれていく様子が伝わってきます。